

「こころの発達医学分野」の新設

平成22年4月に、東京大学大学院医学系研究科 脳神経医学専攻 統合脳医学講座に「こころの発達医学分野」が新設されました。

近年、自閉症や注意・欠如多動性障害（ADHD）などの発達障害をはじめ、「きれる」子ども、児童虐待などこころの発達の問題は増加の一途をたどっており、医学・医療にいつそう強力な対応が求められています。一方、脳神経医学の視点からこころの発達を捉え、臨床と研究を結びつける試みは必ずしも十分ではなかったと言わざるを得ません。そのような現状に対応すべく、本分野の開設に至りました。

これまで約40年間にわたり医学部附属病院の精神神経科小児部、さらにこころの発達診療部において児童精神科臨床や人材育成などを行ってきた実績を踏まえて、研究と教育の推進を目指します。

大学院医学系研究科において児童精神科医が主任を務める本格的な児童精神医学教室としては我が国で最初です。欧米では半世紀以上前から児童精神医学が独立した分野として位置づけられており、児童精神医学教室のある大学が各国に数十校程度存在することに比べるとかなり遅れをとっています。しかし、こころの問題、そしてその基盤にある脳の問題に取り組む上で発達という観点がいかに重要であるか改めて認識された現在、意義ある一歩と考えます。児童精神科医をはじめとしてこころの発達の問題に実際に携わる者が関連する諸領域と連携して研究を展開する体制がようやくできたところです。そして、こころの発達の問題へのより良い対応のため、主導的に研究を推進できるような力を十分に身につけた児童精神科医、臨床と連携できる脳とこころの発達の研究者などの養成を目指します。

研究の対象は、現時点では、自閉症やアスペルガー症候群などの自閉症スペクトラム障害、ADHD、重症なチック障害であるトゥレット症候群、児童思春期強迫性障害（OCD）が中心です。研究の臨床フィールドとして医学部附属病院こころの発達診療部を活用しています。包括的な評価を行って診療の質を高めると同時に、研究と連動できるようにしています。科学的な臨床評価に基づく精神・行動指標の解析をはじめとして、神経心理、脳神経画像や遺伝子など多面的なアプローチを統合して脳とこころの発達における問題に取り組みます。このような統合的な手法を活用して薬物療法や治療教育などの治療法に関する研究も行います。これらの研究にあたっては、大学院医学系研究科精神医学分野や分子精神医学講座はもとより、医学系研究科や医学部附属病院の中の関連部署、さらには教育学研究科をはじめとする学内の関連部署、関連医療機関など、幅広い連携を生かして発展を目指しています。

【こころの発達医学分野ホームページ】<http://childpsy.umin.jp/>

【問い合わせ先】

東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻統合脳医学講座こころの発達医学分野

03-5800-8664

【参考図表】

